



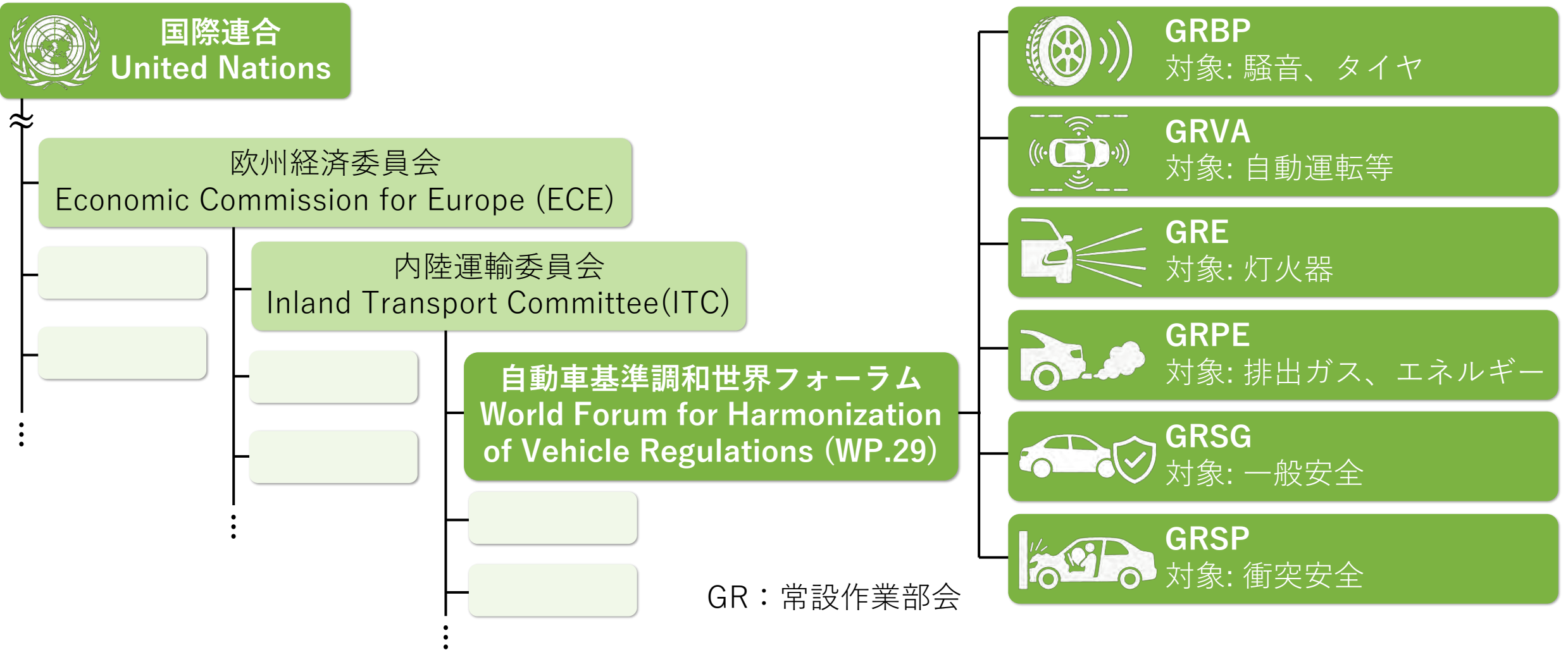
AIに関する国連WP.29での議論動向

研究員 尾崎信利
環境研究部

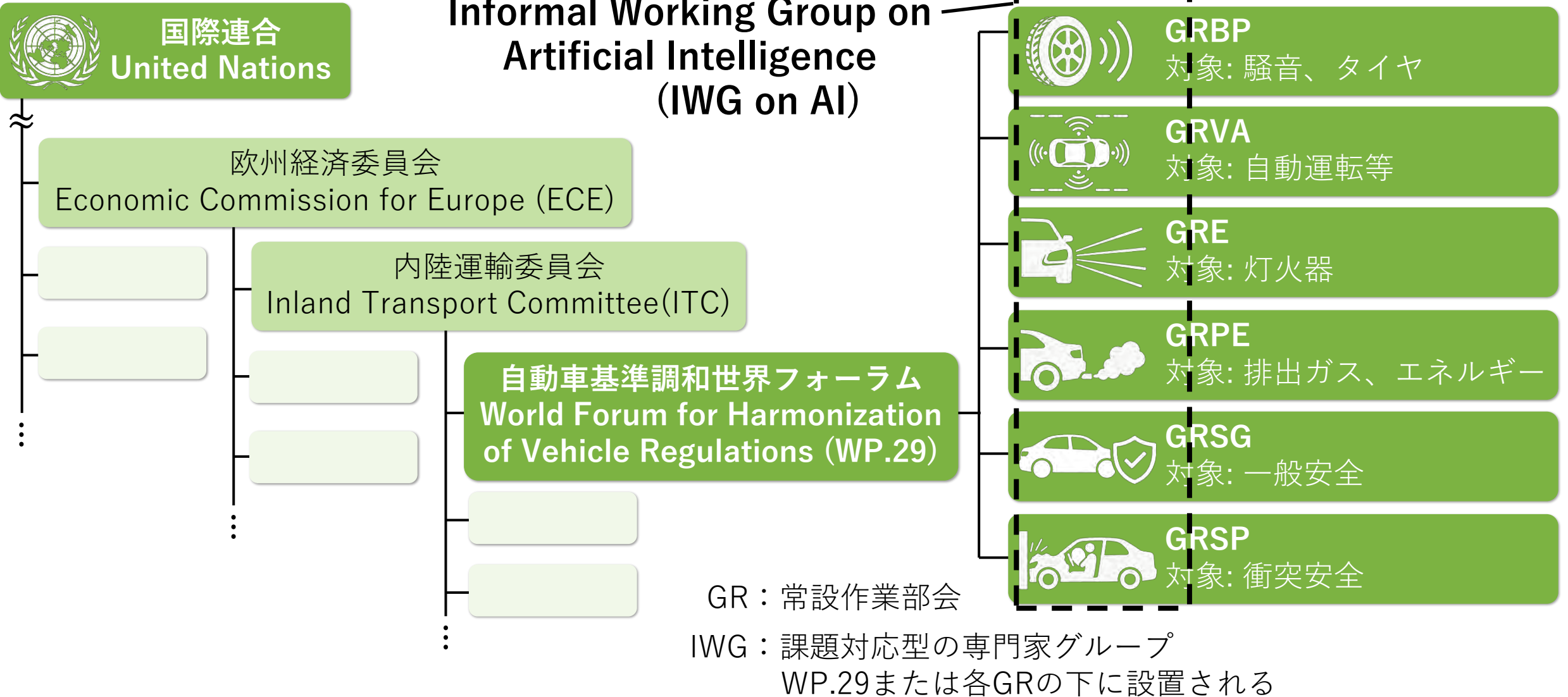
講演内容

- 1 . 国連WP.29とIWG on AIについて
- 2 . IWG on AIの主要な論点
- 3 . IWG on AIの補助論点
- 4 . まとめ
- 5 . 交通研の取組み

国連WP.29について



Informal Working Group on AI (IWG on AI)について



Informal Working Group on AI (IWG on AI)について

設立の経緯

年 月	会合名	内 容
2018年6月	WP.29第175回会合	自動車分野におけるAIの重要性が今後一層高まっていくとの認識が共有された
2024年6月	WP.29 Workshop on Artificial Intelligence	車両規制の文脈におけるAIの位置付けについて検討が行われた
2025年3月	WP.29第195回会合	AIを専門に扱う IWG on AI の設置が決定された
2025年6月	WP.29第196回会合	IWG on AIのTerms of Reference※ が採択された
2025年8月	IWG on AI第1回会合	キックオフ会合
2026年3月	WP.29第198回会合	改訂後のTerms of Referenceが採択された

※Terms of Reference :

何を目的とし、どの範囲を対象にどのような成果を目指すのかを示す文書

Informal Working Group on AI (IWG on AI)について

Terms of Reference

IWG on AIはWP.29の下で、自動車分野におけるAIの利用実態と規制上の論点を横断的に整理する枠組み

主な任務：

用語・定義の整理、関連する研究・規制等のレビュー、AI Use Casesの整理
メーカー・認証当局等が参照できる文書の作成

対象：

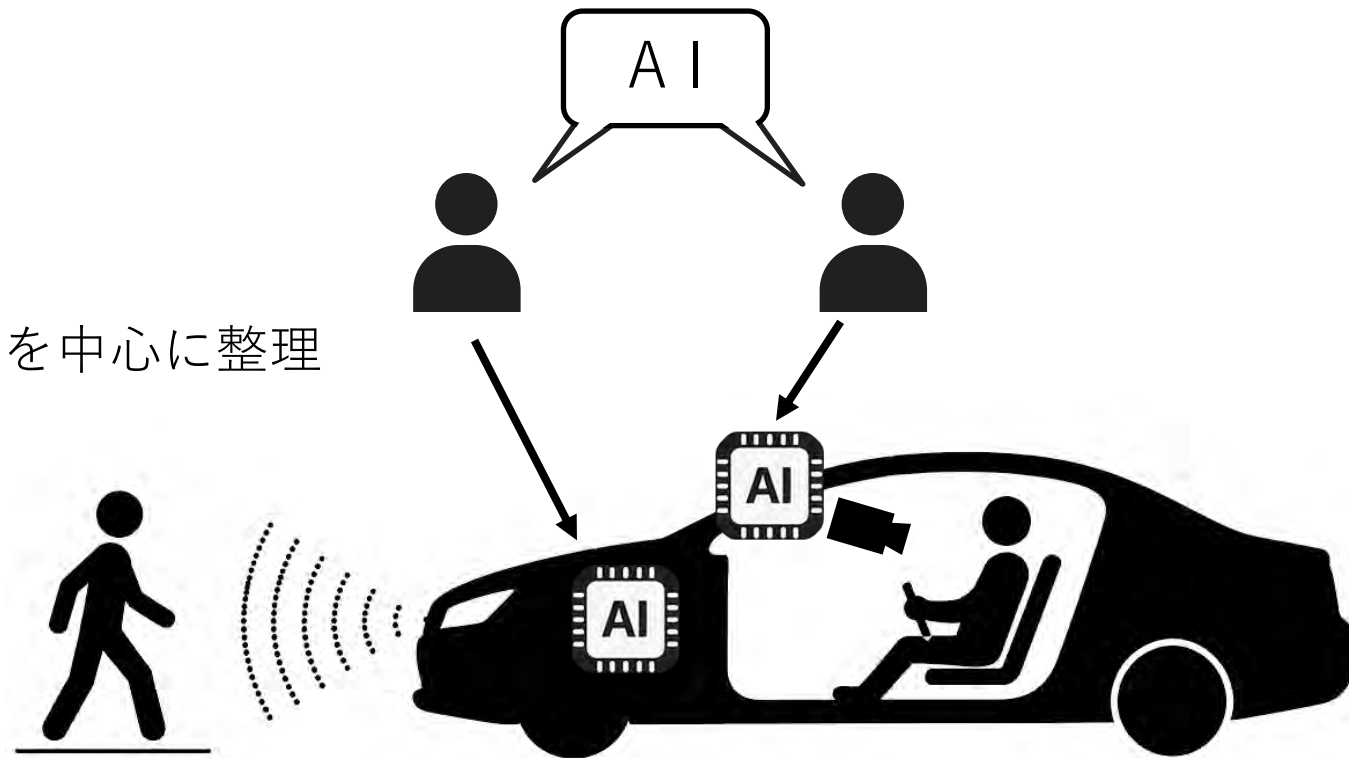
運転支援や自動運転を含む規制対象の車両安全システム
AIのリスク管理や適切なプロセスの考え方を共有することが中心

➡ 現時点では、AIに関する新たな規則を直ちに策定する段階にはない

論点1: AIに関する用語と定義の整理

背景

- 「AI」という言葉は意味が広く
また技術的実装の幅も大きい
- 一般的なAI全般を論じるのではなく
車両の安全に関係する機能に用いられるAIを中心に整理



→ 作業内容

- 規制上の観点からAIの用語・定義を整理し、対象範囲を明確化する
- 用語を単に列挙するのではなく、その用語が安全確認、型式認証、説明責任などの
どの場面で重要になるかが分かるように整理する

論点1: AIに関する用語と定義の整理

用語例と分類

	Fundamental AI Concepts AI分野の基本的概念	例 AI System / AI Lifecycle / AI Safety / AI Model / Training / Validation
	AI Methods & Models 主要な技術・モデル・学習方法	例 Machine Learning / Deep Learning / Reinforcement Learning / Large Language Model / Supervised / Unsupervised
	AI Characteristics AIの能力・性質	例 Explainability / Interpretability / Human Oversight / Controllability / Reliability / Model Drift
	Data-Related Concepts データ・入力に関する概念	例 Dataset / Annotation / Sampling / Pre-processing / Training Data / Out-of-Distribution

論点2：関連文献のレビュー

作業内容

学術論文、既存の法規・規格、関係機関のレポートなど
AIを自動車安全分野で検討する際に参照し得る資料を収集・整理

目的

AIに関する安全上の観点を一からすべて作るのではなく
既存枠組みだけでは扱いきれない AI特有の論点を追加的に整理する

既存の法規・規格など



ISO 26262：故障起因の機能安全の基盤

ISO 21448：故障がなくても生じうるリスクを扱う安全概念（SOTIF）

UNECE R155：車両サイバーセキュリティとCSMSに関する型式認可法規

UNECE R156：ソフトウェア更新管理、モデル更新・バージョン管理との関係

⋮

+



AI特有の論点

説明可能性、制御可能性、データ品質、モデルドリフト、…

論点3: AI Use Cases

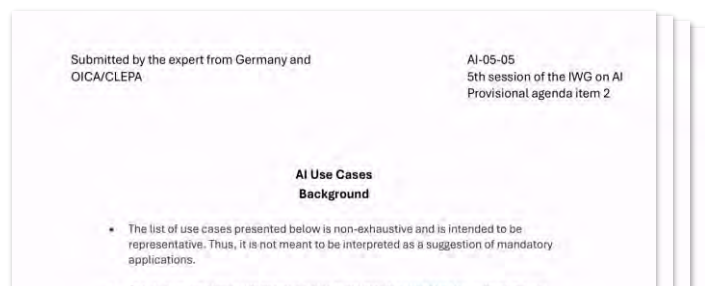
背景

「AI」を一括りにして議論すると、規制上どの機能が論点になるのかが見えにくい

作業内容

- 自動車分野におけるAIの利用事例を個別に検討し
具体的な利用場面ごとに論点を切り分ける
- どのようなケースが既存の規則の延長で扱えるのか／新たな観点が必要となるのかを確認する
- どの領域を優先的に検討すべきかをリスクベースで見極める

※現在のAI Use Casesは非網羅的かつ例示的なものであり、特定のAIの利用を義務付ける趣旨ではない



AI Use Casesの文書



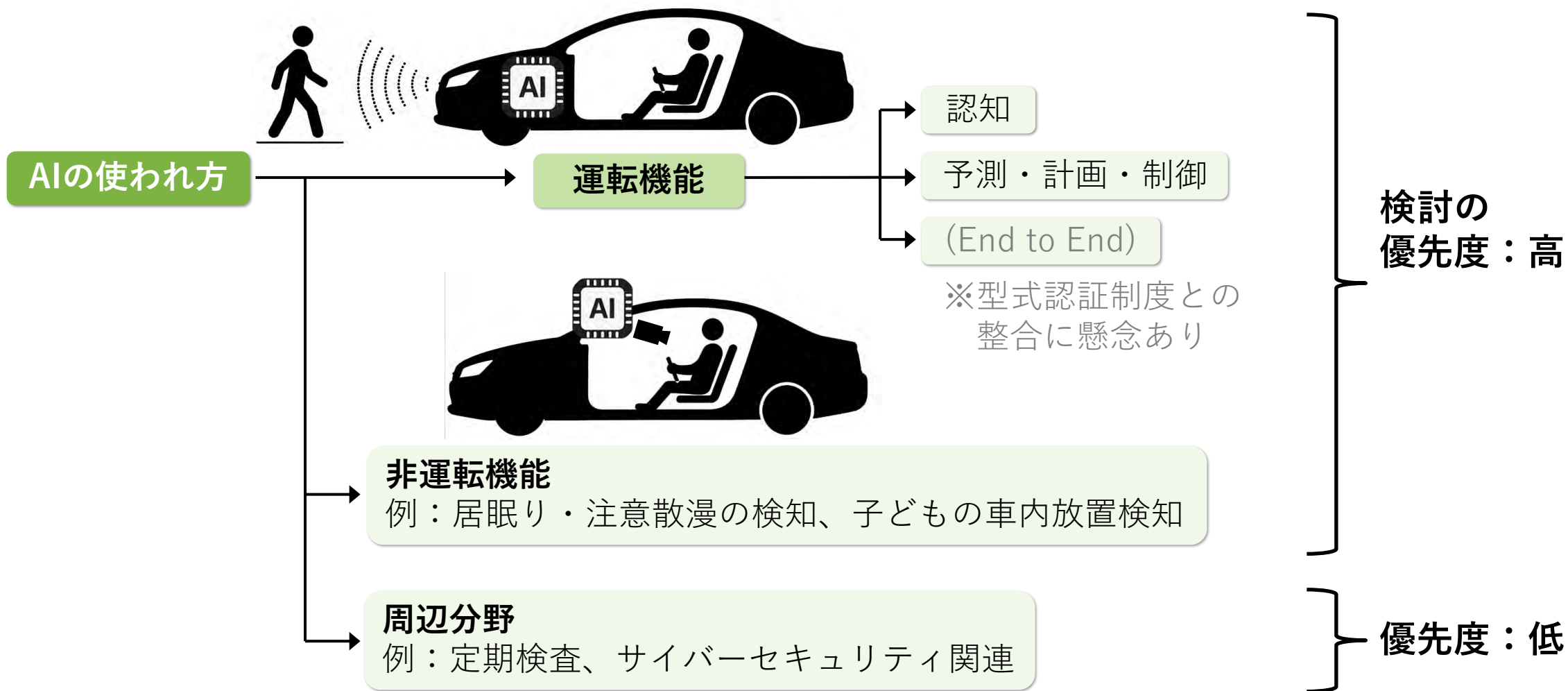
中国提出の資料



日本提出の資料

論点3: AI Use Cases

整理の基本的な考え方



補助論点：Guiding Questions

概要

IWG on AIが今後WP.29に提出する参照文書の構成検討に向け
自動車分野におけるAIの主要論点を体系的に整理するための設問群

IWG on AI 第4回会合（2025年12月）時点

- AIとは何か？
- 自動車分野でAIはどこでどのように使われているか？
- AIはどのような便益とリスクをもたらすか？
- AIの利用とそのリスク低減について、現在どのような実践や管理方法があるか？



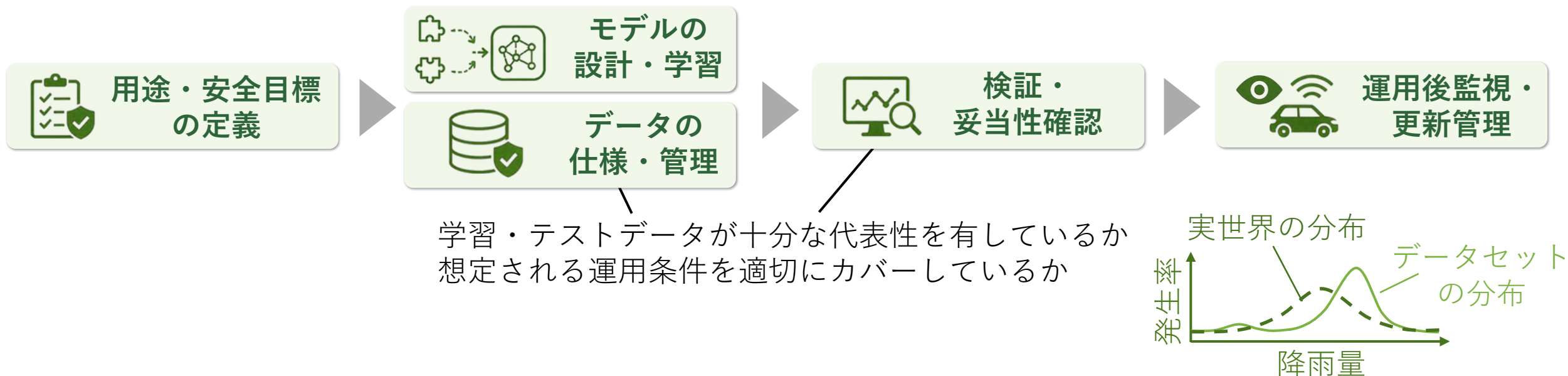
IWG on AI 第7回会合（2026年3月）時点

- 自動車分野でAIはどこでどのように使われており、どのような便益があるのか？
- AIはどのようなリスクをもたらすのか？
- AIの利用とそのリスク低減について、現在形成されつつある実務や管理手法は何か？

補助論点：リスク整理と型式認証への接続

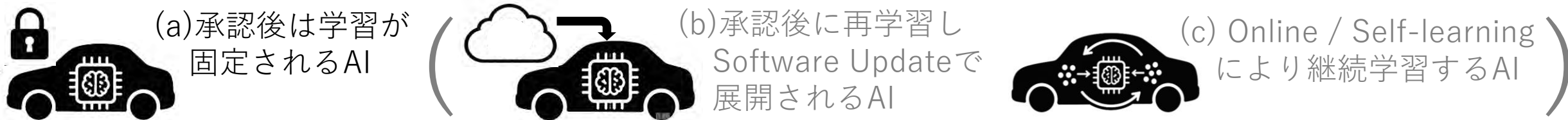
1. どの段階でリスク管理が必要か

最終的な出力結果だけを見るのではなく、リスクをAIのライフサイクルに沿って整理する



2. いつ、どのように学習・更新される AI か

規制上は、AI が型式認証の前後でどのように変化し得るかが重要である



※型式認証制度との整合に懸念あり

まとめ

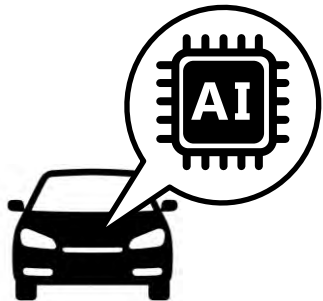
1. WP.29では、自動車分野におけるAIの重要性を踏まえ、2025年にIWG on AIが設置されたIWG on AIは、特定のGRで完結する議論ではなく、複数分野にまたがる横断的な整理を担っている
2. 現段階の議論は、新規則を直ちに策定するものではなく、車両規制の枠組みの中でAIをどう位置付けるかを整理し、将来のルール形成に向けた共通理解を作る段階にある
3. IWG on AIの中心課題は、用語・定義、既存文献レビュー、ユースケース整理である
これらは、AIとは何を指すのか、どの車両機能で使われているのか
既存の安全規格等がどこまで活用できるのかを整理するための基礎作業である
4. 主要論点を具体化する補助論点として、議論全体の構成を示すGuiding QuestionsやAIライフサイクルの視点を踏まえたリスク整理などが扱われている

交通研の取組み

従来の車両安全性評価

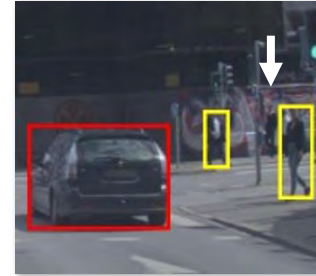


従来の車両では
試験項目やクライテリアが明確に定義され
ルールベースで合否を判定することができた



AI（深層学習モデル）は
非線形な特性（挙動予測が困難）や
学習データへの依存性などにより
性質が従来のソフトウェアとは
大きく異なる

交通研の取組み



実際の路上環境を対象とした認知AIの
構築と評価試験を実施し、どのような
状況で誤りが生じるかを調査

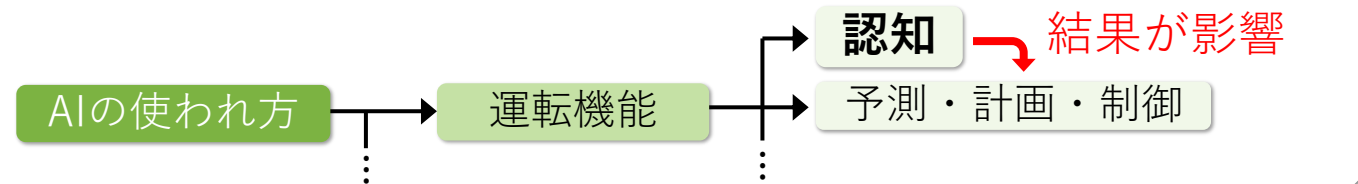


認知誤りが安全上
どのようなリスクにつながるかを評価



これらの知見を踏まえ、安全性確認に
必要な評価観点やクライテリアを
継続的に検討

IWG on AIにおける「AI Use Cases」の分類



ご清聴ありがとうございました